

第 45 回釜ヶ崎越冬闘争への協力要請

今年も越冬闘争の準備が始まりました。

昨年から開始された西成特区構想の現実化は年度替わりとともに急速に進められ、今宮中学校の小中一貫校へ向けた改修工事は急ピッチで進められ、「街づくり合同会社」が設立され、地区内のクリーンアップ作戦としてのゴミの不法投棄監視と撤去が地域労働者の雇用と結びつけながら進められています。9月からは西成区主催の労働センター建て替え問題を中心とした「まちづくり検討会議」なるものが起ち上げられ、「あいりん地区」の各町内会、センター上階の市営住宅自治会、商店会、簡宿組合、社会福祉協議会、労働組合等各労働者支援団体などの参加の下、月二回ペースでの意見交換が進められています。

これは大阪市行政当局によって長い間「仮住まいの流れ者」扱いされ、「住民」として認められてこなかった釜ヶ崎労働者を市民、住民として認知しなければならなくなったことを認めたという意味では画期的なことです。

しかし、もう一方では「12月までに一定の結論を橋下市長に提言するため」などと短い期限が切られているところを見ると、大阪都構想実現に向けた行政区再編のための「西成区のカサ上げ」=西成特区構想という側面から「都構想のスケジュールに合わせた形だけのアリバイ作りではないか」という疑問も払しょくできません。

今年の越冬闘争はこうした地域をめぐる激動の中で闘われます。

この特区構想の流れの中で多くの失業・野宿のなかまたちが排除されるようになってはいけません。一方的な排除の方向へ向かうこととの闘いを準備するための越冬闘争になると思います。

また、越冬をめぐるもう一つの大きな変化は、旧来の南港の臨時宿泊所が閉鎖され、地域内での新シェルターを使った越年対策が実施される予定でした。その新シェルターが入札不調で完成できないうちに旧シェルターや市内各所の施設を使つての越年事業となったことです。

これまでと違う新たな越冬闘争を経験しなくてはならないと考えています。

これまで同様皆様の温かいご支援をお願い致します。

また、2014年12月28日から2015年1月7日までの越冬期間中の現場でのご支援もよろしく願いいたします。